

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	PHYU PHYU ZAW
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	A Study on Mindfulness: The Role of Awareness and Acceptance		
論文審査担当者 Dissertation Committee Members	主 査 Committee Chair 教授 高橋 与志 印 Seal 審査委員 Committee Member 教授 金子 慎治 審査委員 Committee Member 教授 市橋 勝 審査委員 Committee Member 教授 Maharjan Keshav Lall 審査委員 Committee Member 教授 Wiboon Kittilaksanawong (埼玉大学大学院人文社会科学研究科)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本論文では、瞑想などによって現在の経験に自己を集中させている状態を指すマインドフルネス、とりわけその代表的な構成要素である「気づき」と「受容」が、個人のストレスや組織における行動が生じる過程で果たす役割について論じている。 章別構成は以下の通りである。第1章で序論を述べた後、第2章ではミャンマーの社会人を対象とした無作為化比較試験(RCT)を実施し、マインドフルネスと自己への思いやり(self-compassion)に関するオンライン研修の受講が、「受容」の向上を通じてストレス減少に及ぼす効果を明らかにした。第3章では、米国のフルタイム被雇用者を対象としたシナリオ実験を行い、上司の変革型リーダーシップがワークエンゲージメントを通じて文脈のパフォーマンス改善に及ぼす効果を「気づき」特性が強化することを示した。第4章では同じく米国のフルタイム被雇用者を対象とした観察研究によって、「気づき」や「受容」の側面を含むマインドフルネス特性のいくつかの構成要素が感情制御を通じて組織市民行動と正の関係を持つことが分かった。第5章は結論である。 先行研究では、マインドフルネスへの介入効果やマインドフルネス特性に基づく予測として、仕事上の効率や創造性の向上が報告されている。他方でその構成要素それぞれの役割、効果が生じる過程の内在的メカニズムや境界条件にはさらなる分析の余地があった。実証研究を通じてこうした点を明らかにしたことが、当該分野における貢献といえる。 本論文の主な内容の一部は、ESCI誌1篇を含む査読付き論文2篇として刊行済みである。他の主要な分析結果についても、査読付き論文として投稿準備を進めている。以上、審査の結果、審査委員一同は、本論文が著者に博士(学術)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。 1. Phyu Phyu Zaw, Yoshi Takahashi and Khin Sandar Thein. Mindful Self-Compassion Training Online and Perceived Stress: Exploring Moderation of Awareness and Mediation of Acceptance, <i>Journal of Behavioral Sciences</i> , 17(1): 113-124, 2022. 2. Phyu Phyu Zaw and Yoshi Takahashi. Effect of Transformational Leadership on Contextual Performance Mediated by Work Engagement and Moderated by Mindful Awareness, <i>Merits</i> , 2(4): 241-257, 2022.			